

給食や校内別室利用を生かした登校支援について

不登校生徒の状況

対象生徒は、当該生徒は中学 1 年生で、小学校 5 年生から学習面の遅れから不登校になり、基礎的な学力が身に付いていない。中学校入学後、本格的に授業を開始した 4 月中旬頃から欠席が目立つようになり、その後は欠席が続いている。

家庭では、ほとんどの時間をゲームに費やし、ゲーム依存の傾向がある。

具体的な取組

○校内における組織的な対応

校長、特別支援教育コーディネーター、不登校対応加配教員、養護教諭、巡回心理士、特別支援教室専門員、SC、SSW、学年主任と共に、月 2 回、不登校対策委員会を行い、生徒の情報を共有し、関係機関との連携や不登校生徒への対応等について話し合っている。

○不登校生徒の居場所づくり

学級担任を中心として、学年の教員がこまめに生徒に声かけをし、興味のある給食時からクラスに入ることを提案した。不定期ではあるが、週に 1～3 日登校できるようになり、友達とも会話をしている。学級担任や SC が母にも定期的に連絡を取り、生徒に寄り添った支援をしている。

○道徳や総合的な学習の時間への参加

校外学習に参加申し込みをしたことで、総合的な学習の時間に班員と共に校外学習事前学習や係会に参加することができ、校外学習への意欲が高まった。

水曜日の給食後、5 校時の道徳に参加することを提案した。給食後の昼休みは友達と過ごすことができている。



○校内別室の利用

なかなか教室に入れない場合に校内別室を紹介し、保護者と共に見学と体験をした。今後も本人の希望を考慮しながら利用ができるように促す。

成果

中学入学後、学習の遅れによりすぐ不登校になったが、生徒自身の関心のある給食時のみ登校を促すことで、週に数日は登校できるようになった。家から出られない状態から、友達との関わりも増えて笑顔が見られるようになった。

課題

遅れている学習への支援ができるように、学年全体で声かけするとともに、校内別室で支援員に協力を促しながらサポートしてい